

資産形成と人材教育



一般社団法人 投資信託協会 会長
松谷博司 CMA

近年ようやく、これまでの官民挙げでの施策が奏功し、若い世代から資産形成に取り組む動きが見られる。ここから更に多くの人々に資産形成に取り組んでいただくためには、現状の改善を積み重ねることに加え、より柔軟な発想で施策を検討することが必要になってくる。

投資信託協会では多くの有識者の方々にご参加いただき、「すべての人に世界の成長を届ける研究会」を開催し、さらに加速度的に人々の資産形成が進むためには何が必要かという議論を重ねており、近日中にその初回の活動報告を公表予定である。

当研究会では、今から20年後の「2041年の資産形成のありたい姿」を想定し、“ムーンショット”（実現するのは簡単ではないが問題を解決するための大きな目標）での数値目標を設定し、そこから逆算して「今から何をすべきか」を、現状の制約にあまり囚われずに検討することを試みている。また、資産形成というと「長い老後が大変だから、今から節約して準備を」という文脈で語られることも多いが、研究会では将来への備えを行うことが「今、この瞬間を大切にすることに繋がる」ということ、そして投資を継続することが「社会への参画であり、持続可能な社会を創造することに貢献できる」として、資産形成というものを改めて、捉え直す提案もしている。この報告書が、わが国の一般生活者の方々の資産形成の促進に関する更なる議論の進展に少しでも貢献できれ